

目的	概要	詳細	平成 28 年度第 3 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(ア) 地域の医療・介護の資源把握</p>	<p>① 歯科医の訪問歯科診療の実施状況などについて</p>	<p>歯科衛生士の活動状況の把握、市民からのニーズ、積極的にやっている、または今後積極的に行っていくという歯科医師がいるかなど、アンケートをとることができるか。</p>	<p>1. 訪問歯科診療の対応表は完成しており、更新については、当面年 1 回を予定している。この対応表は、関係機関の資料として使用することとする。</p> <p>2. 対応表と各医院のホームページ、歯科医師会ホームページの医院情報との間に不一致がみられるため、今後修正を行っていく。</p> <p>3. 衛生士会との連携やフリーの歯科衛生士の発掘、専門的な口腔ケアができ、施設職員や家族に指導できるような人材の養成に取り組みたいと考えている。</p> <p>4. 将来的には、歯科衛生士がいない歯科医院の派遣依頼にも対応できるよう人材バンクのようなものを整備できるとよい。</p>	<p>【高木委員】</p> <p>1. 平成 29 年 7 月版は完成。 医師会、薬剤師会に配布。 介護サービス事業者連絡会を通してケアマネ、介護事業所等に配布予定</p> <p>2. チェック、確認し順次修正している。</p> <p>3. 衛生士会との話し合い、情報交換は継続している。 人材養成は難しいが、研修会の情報を共有し、各々のレベルアップを試みている。</p> <p>4. 人材バンクは理想であるが、難しい状況。</p> <p>【船橋委員】</p> <p>かかりつけ歯科が決まっていない方、もしくはかかりつけ歯科が訪問歯科診療非対応であった方から申し込みや問合せがあった場合、小牧市歯科医師会やその他関係機関と連携し、在宅での歯科診療が行えるようサポートを行っている。歯科医師会全体での一律の対応はなかなか難しいと思うが、在宅医療の推進に向け環境整備を図っていかれたらと考える。</p> <p>また、歯科治療や口腔ケアの必要性、実施方法等について関係機関と共有し、連携の強化を図りたいと考える。</p>	<p>【高木委員】</p> <p>1. 対応表が必要なところ（人・場所）をしっかりと把握する必要がある。</p> <p>3. フリーの衛生士の把握が難しい。</p> <p>4. 歯科衛生士等が活用できる場所、機会を確保していくこと。</p>	<p>高木委員 船橋委員</p>

目的	概要	詳細	平成 2 8 年度第 3 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(ア) 地域の医療・介護の資源把握</p>	<p>㉔ 薬剤師の訪問薬剤管理指導の実施状況などについて</p>	<p>訪問薬剤管理指導の活動状況の把握（施設／在宅など）、麻薬の取扱い、中心静脈栄養、I V H 機材、ポンプ、24 時間対応、日曜日の対応を積極的に行っていこうという薬局があるのかなど、アンケートをとることができるか。</p>	<p>アンケートの結果は、市や包括、保健センターなどに設置して活用していただきたい。 49 保険薬局のうち 40 薬局は在宅患者訪問薬剤管理指導の届出を出している。実際に在宅の受入れができる薬局は 16 薬局で、このうち 24 時間対応できる薬局は 12 薬局である。平成 28 年 4 月の制度改正後、健康サポート薬局に関する講習会などが行われる予定であるが、市内で基準を満たすであろう薬局は 2 薬局である。 来年度、24 時間対応できる薬局の一覧表を作成する。</p>	<p>【木全委員】 愛知県の指定の条件が厳しく、24 時間対応できる薬局は 8 薬局と、昨年度より少なくなっている。 ※ 一覧表については、別紙のとおり</p>	<p>【木全委員】</p>	<p>木全委員</p>

進捗状況報告シート

資料 2

目的	概要	詳細	平成 28 年度第 3 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(ア) 地域の医療・介護の資源把握</p>	<p>③ 各介護保険サービス事業所についての情報共有について</p>	<p>各事業所において、巡回型、吸引行為、経管栄養、インシュリン注射、吸引、膀胱カテーテルの交換、ガン末期患者や困難ケースの受け入れ、看取りなど、専門性や得意分野などの整理ができるか。</p>	<p>事業所一覧については各事業所の医療対応情報を加えた形で平成 28 年 7 月に完成した。市内の介護保険事業所に配布するとともに、市やふれあいセンターの窓口を設置している。</p> <p>今後も年 1 回の刷新を予定しており、新しい情報の提供に努める。</p> <p>本当に必要としている情報が入っているか、実際に活用した上でヒアリングが必要である。また、医療機関へ配布することも必要だと考えている。</p>	<p>【田中委員】 事業者連絡会事務局として事業所一覧の医療機関への配布は、ダイジェスト版であれば配布は可能である。</p>	<p>【田中委員】 制度の内容が複雑であるため、冊子版は事業者向け、ダイジェスト版は市民向けになっている。医療機関としてはどの程度の情報が必要か。連携の仕方を踏まえて、活用用途を検討してもらいたい。</p>	<p>伊藤委員 大野委員 田中委員 地域包括</p>

目的	概要	詳細	平成 28 年度第 3 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(九) 医療 介護関係者の研修</p>	<p>④ 研修について</p>	<p>i) 医療関係者において、歯科、薬局を含めて研修を行えると良い。</p>	<p>平成 28 年度の「医師とあゆむ勉強会」は予定どおり開催した。 在宅医療導入研修として、終末期に関わる援助や医師の意見交換会を行う予定である。 訪問診療に対する医師の考え方のアンケート結果を、市を始めとする関係機関に提示する。 今後は、眼科・耳鼻咽喉科の情報を取りまとめるとともに、医療機関から訪問看護の紹介を依頼された場合の対応マニュアルなどを作成し、問い合わせにスムーズに対応できるように整備していく。 勉強会を今後どのような形で継続していくのがよいのか検討が必要。また、診療所間の連携に向け意見交換会を継続して開催するが、医師の参加が少ないため、時間の工夫や内容の選定が必要である。</p>	<p>【磯村委員】 ・「医師とあゆむ勉強会」は在宅医療推進委員会後、開催し医師の参加も目的にしている。(救急救命士による救急車を呼ぶということ・高齢者に関する運転免許制度・葬儀社によるグリーンケア・施設全般・在宅医療導入研修として終末期に関わる援助。12 月皮膚排泄ケア認定看護師・2 月訪問看護師・摂食嚥下サポートチーム立ち上げと講習会) である。 ・医師と各関係機関との意見交換会は今後に向けて有意義だった。 ・在宅医療に関してアンケート調査結果(公表可)は医療介護関係機関に情報提供する。 ・医師会にて副科(耳鼻咽喉科、眼科に限る)の紹介マニュアルを作成し 3 件紹介した。今後も継続する。 ・在宅医療を行うにあたり訪問看護の必要性は高まっている。情報提供し連携を強化。</p>	<p>【磯村委員】 ・訪問診療している医療機関の連携が難しい。クリニック医師にさらなる訪問診療依頼は課題が多い。訪問看護ステーションや多職種とのさらなる関わりの強化をするなど、切れ目のない在宅医療提供体制に繋がる施策が必要ではないか。 研修会については、医師の参加の増加と、関係機関の研修会、勉強会が重ならないための対策が課題である。</p>	<p>磯村委員</p>

目的	概要	詳細	平成 28 年度第 3 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(九) 医療・介護関係者の研修</p>	<p>㊦ 研修について</p>	<p>ii) 地域包括支援センター、ケアマネジャー、訪問看護がお互いに勉強をできるような研究会を行えると良い。</p>	<p>10月4日にケアマネジャーと訪問看護の座談会を初めて開催し、59名が参加。訪問看護についてコストや持っているイメージについて意見交換を行った。また、12月5日に訪問看護とケアマネジャーの合同研修会を開催し50名が参加したが、看護師の参加が少なく、より多くの看護師に研修会へ参加いただけるよう対応策の検討が必要である。 また、いずれの会も訪問看護師の参加が少ないため、具体的な連携体制を考えるまでに至っていない。</p>	<p>【大野委員】 今年も10月11日に「訪問看護とケアマネの合同研修会」が開催された。 (52名参加。うち、訪問看護師9名) 今後、更に医療依存度の高い在宅療養者が増加しているなかで、訪問看護師とケアマネとの情報共有は大変重要であるため、定期的な合同研修会開催が必要である。</p>	<p>【大野委員】 ケアマネをはじめ、関係機関が、訪問看護の役割を正しく理解し、医療と介護のパイプとなる位置づけであることを再認識することが必要である。 そのためには、訪問看護ステーションの数量や、訪問看護自身の意識や質的なことも踏まえて改善が求められる。</p>	<p>志津委員 大野委員 地域包括</p>
		<p>iii) 日程が重ならないように調整が必要。</p>	<p>平成 28 年度から介護支援専門員連絡協議会のホームページに情報共有用のスケジュール表を掲載している。 前半は各機関からの情報提供があったが、後半はほとんど連絡が来なかったため、この情報共有用のスケジュール表の効果がどうだったのか、現状のやり方では効果がないので、今後、実施方法などを検討する必要がある。</p>	<p>【田中委員】 現状もスケジュールを変わらず掲載している。 ホームページの閲覧は、毎月 70 件ほどあるが、どの程度活用されているかは不明である。</p>	<p>【田中委員】 前回同様に、一団体のホームページの掲載でよいか心配。 また、スケジュールの情報があることを関係機関に周知する必要がある。</p>	<p>田中委員</p>

進捗状況報告シート

資料 2

目的	概要	詳細	平成 28 年度第 3 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(主) 地域住民への普及啓発</p>	<p>(5) わた史ノートの普及・啓発について</p>	<p>わた史ノートをただ渡すだけでなく、包括やケアマネジャー、民生委員、区長など、話すことのできる人を養成できると良い。</p>	<p>10 月・11 月と各地区の民生委員を対象にわた史ノートが作成された背景などについて説明した。</p> <p>平成 29 年度は新しい包括の情報を加えた内容に改訂し、4 月 15 日号の広報に、市民レポーターによる取材記事を掲載する。</p> <p>内容の見直しの必要性を検討するにあたり、実際に利用した人の声を聞く必要がある。また、民生委員に行ったアンケートを分析のうえ、今後の対策を検討する。</p>	<p>【江口委員】</p> <p>平成 29 年 4 月から南部地区に地域包括支援センターが開設したことを踏まえ、わた史ノートを一部修正し、増刷した。</p> <p>来年度以降、わた史ノートの普及啓発を目的として、市出前講座のメニューに追加し、地域包括支援センターが中心となって普及・啓発を図る予定である。</p> <p>それに先立ち、小牧市民病院にご協力いただき、改めて、わた史ノートについての講義を行っていただくとともに、2 月に開催される寿学園において、わた史ノートについての講演を行っていただく予定である。</p>	<p>【渡邊委員】</p> <p>わた史ノートを今後さらに普及させるためには、それぞれの団体において活用方法を検討する必要がある。</p> <p>【江口委員】</p> <p>平成 29 年度から、葬儀会社「シオン」が市出前講座の中で『終活講座』を開始し、老人クラブなどの高齢者団体からの受講希望が増え、その際に、わた史ノートを活用したいとの声が寄せられた。わた史ノートをより多くの方に知っていただく機会につながっている一方で、作成の背景などが理解されないまま活用されてしまう状況もある。</p> <p>来年度から市の出前講座のメニューに加えることで、受講希望が増えることも予測され、その対応の体制について、整備する必要がある。</p>	<p>渡邊委員 大野委員 地域包括 江口委員</p>

目的	概要	詳細	平成 2 8 年度第 3 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(ウ) 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進</p>	<p>⑥ 療法士の取り組みについて</p>	<p>療法士の今後の取り組みについて、具体的に誰がどのようにやっていくか計画を出せると良い。</p>	<p>第 2 回協議会以降、体操教室を 5 回、介護教室を 1 回実施。また、サロンへ 3 回出向いた。その他に、認知症介護家族交流会や地域ケア会議にも各 1 回出席。 保健師の訪問に 2 回同行し、ケアマネ向けに講義・演習を 1 回行った。 県の PT、OT、ST の 3 士会により情報センターが設置され、地域包括ケア推進委員会のバックアップ体制も整った。交流会の場づくりは、場所の設定に問題があり、実現していない。 各療法士のマンパワーの確保や、事務局スタッフが多忙のため負担の軽減が課題である。また、市と連絡会、情報センターとの連携方法について検討する必要がある。</p>	<p>【大橋委員】 4/22 小牧市リハビリテーション連絡会総会、勉強会 ・膝腰スッキリ体操：13 回 ・身障意見交換会 ・小牧市版介護予防リーダー養成研修、講師 ・介護教室（味岡） ・在宅医療・介護連携研修会 ・美姿勢 EX（一般向け） 予定 ・膝腰スッキリ体操：4 回 ・寿学園にて講演 ・介護予防関係者への出向 ・つどいの場立ち上げの手伝い ・こまき山体操の作成 ・介護支援専門員向け講演</p>	<p>【大橋委員】 ・療法士の参加環境の整備 ・事務局の負担増 ・療法士の質の担保 ・他業種の提供との違いを明確にする</p>	<p>大橋委員</p>

進捗状況報告シート

資料 2

目的	概要	詳細	平成 28 年度第 3 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
(工) 医療・介護関係者の情報共有の支援	(ア) 病院とケアマネジャーの連携について	病院とケアマネジャーの連携について連絡方法など、意思の疎通を図っていると良い。	【介護側】 連携シートができた 6 月は啓発活動に積極的に取り組んできたが、その後はケアマネジャー任せになっている。病院から活用状況について情報提供いただき、ケアマネ事業所が連携シートを活用できるようにしていきたい。	【田中委員】 8 月 28 日に病院と在宅の連携を考える研修会を実施した (66 名参加) 昨年の研修から一年が経過したところでの報告をいただいた。医療と介護の連携シートや ICT などを使って連携をとることの重要性を再確認した。	【田中委員】 左記の研修に先立ち、6 月に「医療・介護連携に関するアンケート調査」を実施した。 その結果、ケアマネから主治医への連携の働きかけが十分でないことがわかった。背景となる課題もあるが、まずはケアマネが連絡をすることを実践できるようにしたい。	田中委員 大野委員
			【医療側】 連携シートの活用状況について、平成 28 年度は約 300 件の活用があった。市外の事業所においても連携シートの活用がされてきており、徐々に意識が高まっていると思っている。 市町で様式が違い、病棟・外来で混乱することがあるため、様式の統一が望ましい。 今後は、データの精度を上げ、在宅医療・介護連携の推進に向け活用できるようにしていきたい。	【菅沢委員】 平成 29 年 4 月から 9 月で 81 件のシート活用。 入院直後に情報交換ができ、早期より退院支援の介入につながりつつある。 8 月 28 日介護連携シートの活用状況について報告会を実施。意見交換が出来た。	【菅沢委員】 要支援の患者の情報共有を今後、検討する必要がある。 先回の報告会にあった看護サマリとの整理が必要であり、運用の再検討をお願いしたい。 また、ケアマネ自体、介護シートの活用価値がないとのことであったため、検討をお願いしたい。	菅沢委員

目的	概要	詳細	平成 28 年度第 3 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(工) 医療・介護関係者の情報共有の支援</p>	<p>(8) ICTの構築について</p>	<p>小牧市において、統一した形で ICT を構築できると良い。</p>	<p>在宅医療サポートセンターが開催する「医師とあゆむ勉強会」や医師会理事会において、システムについて説明した。 今後、市が考えた運用ルールについて関係機関からご意見をいただき、内容の修正などを行う。また、利用規約やセキュリティポリシーの制定や、システム構築のための準備を行う。</p>	<p>【江口委員】 地域の医療や介護等の関係者が連携を図り、サービス提供等の状況について情報共有を図ることを目的に、ICT を活用した医療・介護連携システム「こまきつながるくん連絡帳」を平成 29 年 10 月 1 日から導入した。 導入に先立ち、協議会メンバーを中心にトライアルを実施し、その運用実験の結果を踏まえ、利用に際しての課題を整理した。 その後、計 6 回にわたり、操作説明会を実施し、延べ、215 名の方に受講していただいた。 【説明参加者の状況】 ・資料 1 を参照 現在、順次、利用者登録を受け付けており、より多くの医療・介護の関係者の登録を促していく。 【登録者の状況】 ・登録施設数：38 か所</p>	<p>【江口委員】 稼動したばかりでもあり、登録施設数が少ない。 まずは、登録施設数を増やし、1 例でも多く、患者登録をして、支援の中で活用できるようにする必要がある。 今回導入した「こまきつながるくん連絡帳」については、愛知県内で 45 の自治体が導入、導入予定であるシステムであるが、今後は、近隣市町との連携について検討する必要がある。また、運用の中で発生する新たな課題もあると考えるため、運用しながら、適宜、修正する必要があると考える。</p>	<p>江口委員</p>